

●発表日: 令和5年(2023年)11月29日

伊川津貝塚で発見！ 縄文犬の墓から見つかったアクセサリーを初公開します

伊川津貝塚は田原市伊川津町郷中に所在する、神明社を中心とする、南北60m、東西180mに貝層が広がる東海地方屈指の縄文時代後期末から晩期の貝塚です。

2008年度から2010年度、2013年度に下水道工事（農村集落排水工事）に伴う発掘調査で、2009年3月に縄文犬（2008年11号犬）を埋葬した墓（今から三千数百年前）が発見され、その後の整理で墓に収められた長さ1.7cmの貝を加工した装飾品2個が確認されました。今回、縄文時代の装飾品が犬の墓に供えられた日本で初めて確認された事例となりました。

このたび、期間限定で展示をいたします。また、同種（科）の貝でつくった復元品も展示します。



写真（上） 現物

写真（下） 復元品 アマオブネ・フトヘナタリ（※現物に近い種類（科）で復元）

- 1 公開期間 12月2日（土）～12月27日（水）
- 2 会場 吉胡貝塚資料館（田原市吉胡町矢崎42-4） 電話（0531）22-8060
- 3 入館料 一般200円 小・中学生100円

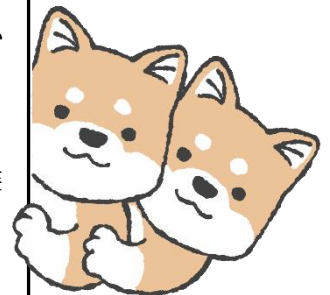
※東三河在住・在学の小中学生は「ほの国こどもパスポート」の掲示で観覧無料

○何に使われていたもの？

穴があげられていることから穴に紐状のものを通し使用されると思われるが、人でいえば首にかけたものか、腕や足首など体のどこかにつけたのか想定されるが、具体的な使用方法はわかっていない。墓にあったことは分かったが、生前の犬のための持ち物だったのか、埋葬された時に供えられたのかは、見つかった様子からはわからない。

○この発見によってわかること

これまで縄文人が犬を大切にしていたことはわかっていたが、人間と同じ装飾品を墓に供えるということは、現代のペットにも似た、狩猟のパートナーとしてだけでなく、人間と犬との関係を考え直す重要な事例となる。



（担当）文化財課 増山 電話（0531）22-1720

<開催中> シェルマよしご 冬の特別体験



シェルマよしご特別体験
木の実でクリスマスリース

木のつるや稲わらで作ったリースに、木の実や貝殻などをはりつけて作ります。



11/18(土)▶12/27(水)

体験料 400円～(別途観覧料)

場所 吉胡貝塚資料館 2階体験教室

受付時間 9:00-16:00

お申込み 0531-22-8060

- 数量限定です。予約優先となります。
- 素材(つるや木の実)は時期により種類や数が変動します。あらかじめご了承ください。

シェルマよしご(吉胡貝塚資料館|吉胡貝塚史跡公園)田原市吉胡町矢崎 42-4 TEL:0531-22-8060

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日 毎週月曜日(祝日の場合はその翌平日)

観覧料 一般 200円(160円) 小中学生 100円(80円)※()は20名以上の団体割引



(HP)



(Instagram)



Instagramも
やってます!



善ほう、義文の丘 字ほう、先人の知恵
シェルマよしご
YOSHIGO SHELL MOUND